

大津企業景況調査報告書

(第46回)

平成21年 7月～ 9月期 実績

平成21年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成21年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	20社	100.0%
製造業	10社	10社	100.0%
卸売業	10社	10社	100.0%
小売業	30社	27社	90.0%
サービス業	30社	26社	86.7%
合計	100社	93社	93.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成21年7月～9月とし、調査時点は平成21年9月2日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は底打つも極めて低い水準で推移

平成21年7月～9月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、過去最悪となった平成21年1月～3月期を底にして前期、今期と2期連続改善したものの、DIは極めて低い水準で推移している。昨年来、売上減少傾向が続いており、採算の悪化から資金繰りが悪化している。雇用面でも過剰感が続き厳しい状況である。業種別にみると、卸売業、小売業の業況はやや持ち直したが、製造業、サービス業は再び悪化し、業種ごとに違いがみられる。

□ 業況判断DI（前年同期比）は極めて低い水準

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、1月～3月期の▲58で底を打ったとみられ、前期が▲54、今期が▲51と、その後は極めて低い水準で推移している。業種別にみると、卸売業、小売業の業況はやや持ち直したが、製造業、サービス業は再び悪化した。

□ 売上DI（前年同期比）は全産業で低迷が続く

「前年同期比でみた売上DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前々期、前期に大幅悪化した▲69から今期は▲59と悪化幅は縮小したが売上の低迷が続いている。業種別にみても全ての産業で売上の減少が続いている。

□ 採算DI（前年同期比）は悪化幅が縮小

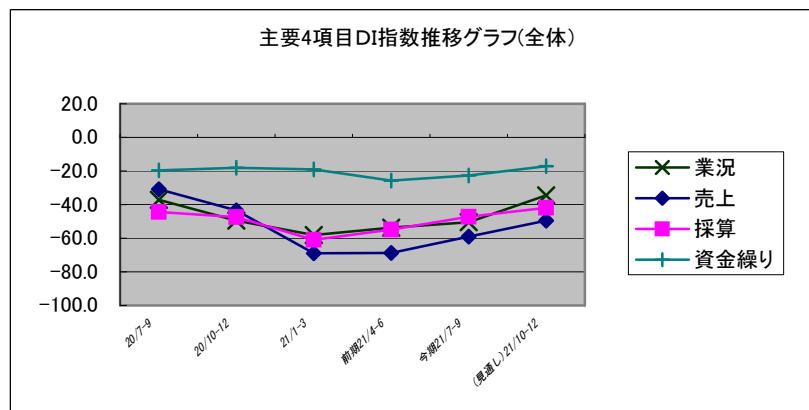
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前期の▲55から今期▲47と悪化幅が縮小している。「採算（経常利益）水準」指数（「黒字」－「赤字」）は前期▲31から今期▲22と赤字企業が減少した。業種別にみても、全般に悪化幅が縮小している。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は低調に推移

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前期の▲26から今期▲23と低調に推移している。これは昨年来の業績・採算の悪化から金融調達がやや困難になっていて資金繰りが悪化しているものとみられる。業種別にみると、すべての業種で悪化が続いている。

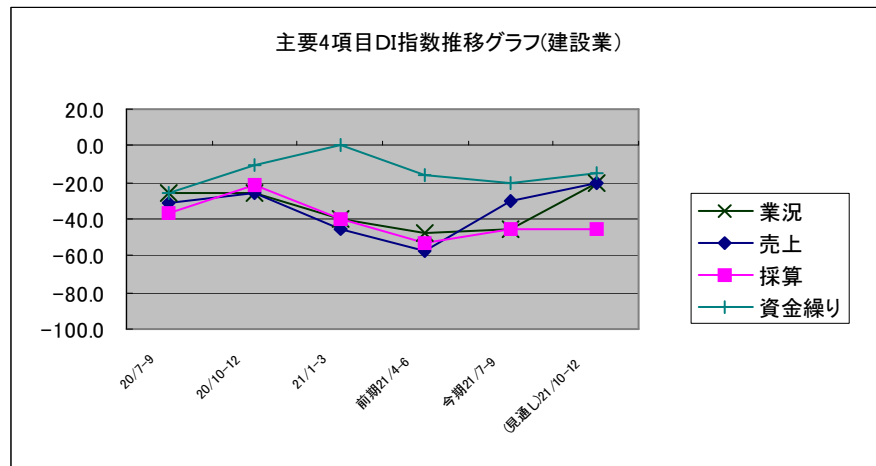
□ 従業員DI（前年同期比）は過剰感が和らぐ

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前期の▲11から今期▲7と過剰感が和らいでいる。業種別にみると、製造業と卸売業で過剰感が和らいでおり、小売業では+11と不足感が出てきている。



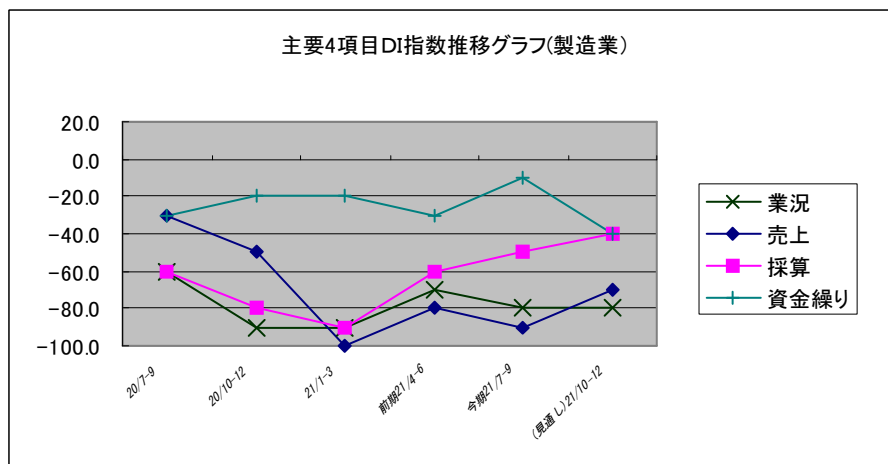
建設業

DI指数をみると「業況」は、前期▲47から今期▲45と悪化が続いている。個別指標をみると「売上」は、前期の▲58から今期▲30と受注減少幅は縮小し、「取引の問合せ」も▲53から▲40と減少幅は縮小している。「採算」は、前期▲53から今期▲45と悪化が続いている。採算の悪化は下請工事業者の受注価格が不況の中、切下げられることなどが影響しているとみられる。ただし「採算水準」は、前期▲32から今期▲15と赤字幅は縮小した。「従業員」は、前期▲16から▲20と過剰感が続いている。「資金繰り」は、前期▲16から今期▲20にさらに悪化した。



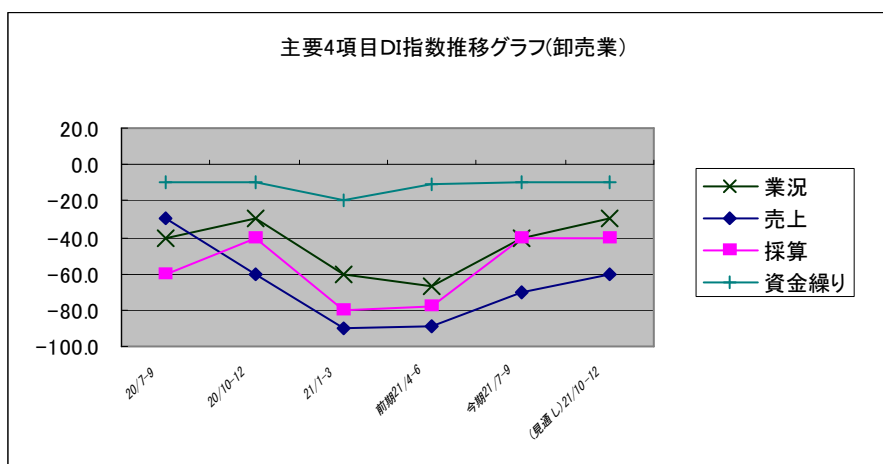
製造業

DI指数をみると「業況」は、前期▲70から今期▲80と一層悪化した。「売上」も、前期▲80から今期▲90とさらに悪化した。「採算」は、前期▲60から今期▲50と悪化が続き「採算水準」は、前期の±0(収支トントン)が続いている。「従業員」は、前期▲40から今期▲20と人員過剰感が緩和した。「取引の問合せ」も前期▲80から今期▲40と最低の状況からは改善している。「資金繰り」は、前期▲30から今期▲10で悪化が続いている。業況の悪化が続くのは、製造業の受注回復効果が中小企業にまで波及していないためとみられる。



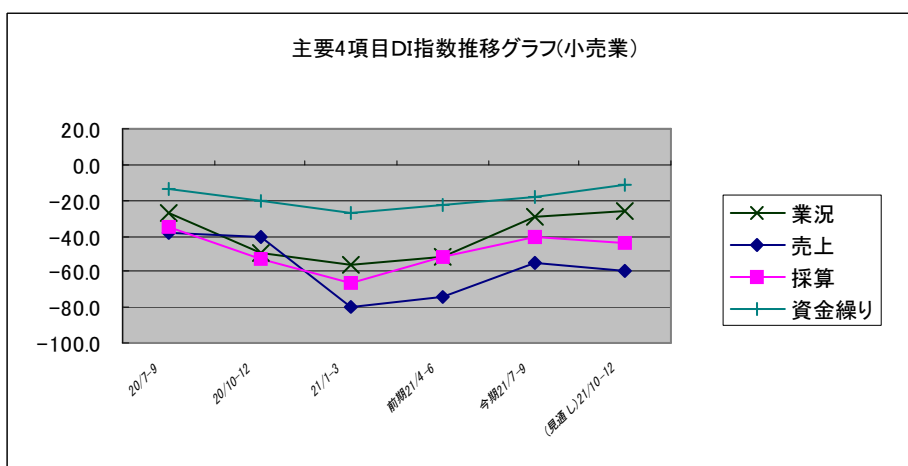
卸売業

DI指数をみると「業況」は、過去の最悪となった前期の▲67から今期▲40と悪化幅が縮小した。「売上」は、前期▲89から今期▲70と減少幅が縮小し、「取引の問合せ」は▲56から▲40とやや改善した。「採算」は、前期▲78から今期▲40と改善しているが、「資金繰り」は、▲11から▲10とやや悪化が続いている。「従業員」は、前期の▲22から今期▲10と過剰感は和らいでいる。



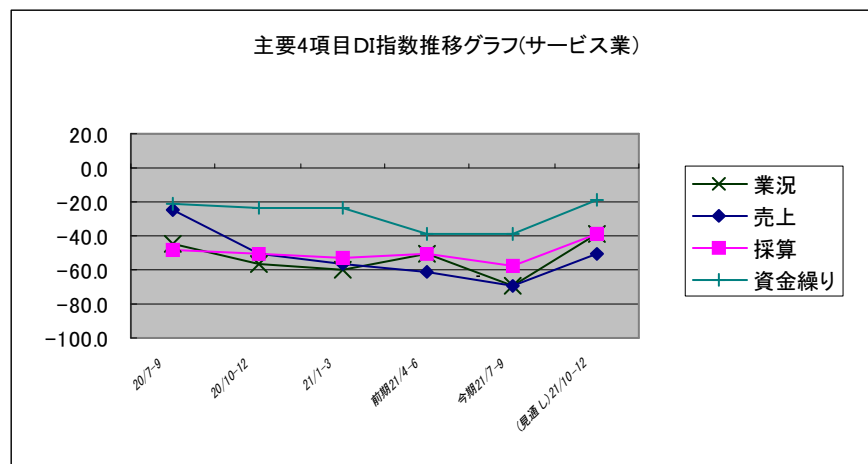
小売業

DI指数をみると「業況」は、前期の▲52から今期▲30と悪化幅が縮小した。「売上」は、前期▲74から今期▲56と低迷が続き、「採算」も▲52から▲41と悪化が続いている。「取引の問合せ」は、前期▲59から今期▲33と低調ながら改善している。「従業員」は、前期+4から今期+11と不足感が一層強まっている。これは、中小商店が業況悪化で人員削減した結果、人員不足感が出てきたためと考えられる。「資金繰り」は、前期▲22から今期▲19と悪化が続いている。



サービス業

DI指数をみると「業況」は、前期▲50と少し戻ったが、今期は▲69と過去最悪水準になった。これは新型インフルエンザの広がりが飲食業、ホテル等に大きな打撃を与えたこと等が原因と思われる。「売上」は、前期▲61から今期▲69とさらに減少し、「採算」は▲50から▲58とさらに悪化した。「従業員」は、前期▲7から今期▲8と人員過剰感が続いている。「資金繰り」は、前期▲39から今期▲39と引き続き厳しい。



来期(3ヵ月先)の見通しについて、全体の「業況」は、今期の▲51から悪化幅が和らいで▲34となる見通し。「売上」は、今期▲59から来期▲50と悪化幅が縮小し、「採算」も、▲47から▲42と悪化幅がやや和らぎ、「従業員」は、▲7から▲4と過剰感が縮小する。「資金繰り」は、今期の▲23から来期▲17と悪化が続く見通し。業種別にみると製造業は厳しい業況が続くとみているが、その他の産業では回復の兆しがあるとみている。

このように先行き回復の兆しがある見方が多いのは、以下の理由とみられる。まず、底を打ったとみられる経済が、回復に向けて歩み始めている現状を反映していること。ただ金融危機後の経済の急激な落ち込みからの反発力が弱い上に、中小企業への波及が少ないことや業種でもバラツキがあることから小幅改善しか見込んでいない。円高の影響が懸念される製造業や、新型インフルエンザのさらなる広がりの影響が懸念されるサービス業では、慎重な見方をしている。

来期の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は、前期の20%から16%に減少した。製造業では、前期の40%から今期は10%に大幅減少した。建設業は、前期32%から今期30%とやや減少した。設備投資をする企業の投資内容は、設備更新投資が40%で最も多く、次いで合理化・省力化投資と生産力増強投資がそれぞれ20%であった。また投資判断については、「景気動向によって見直す」が56%と過半数で、「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」の38%を大幅に上回り、慎重な投資姿勢が続いている。

(中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

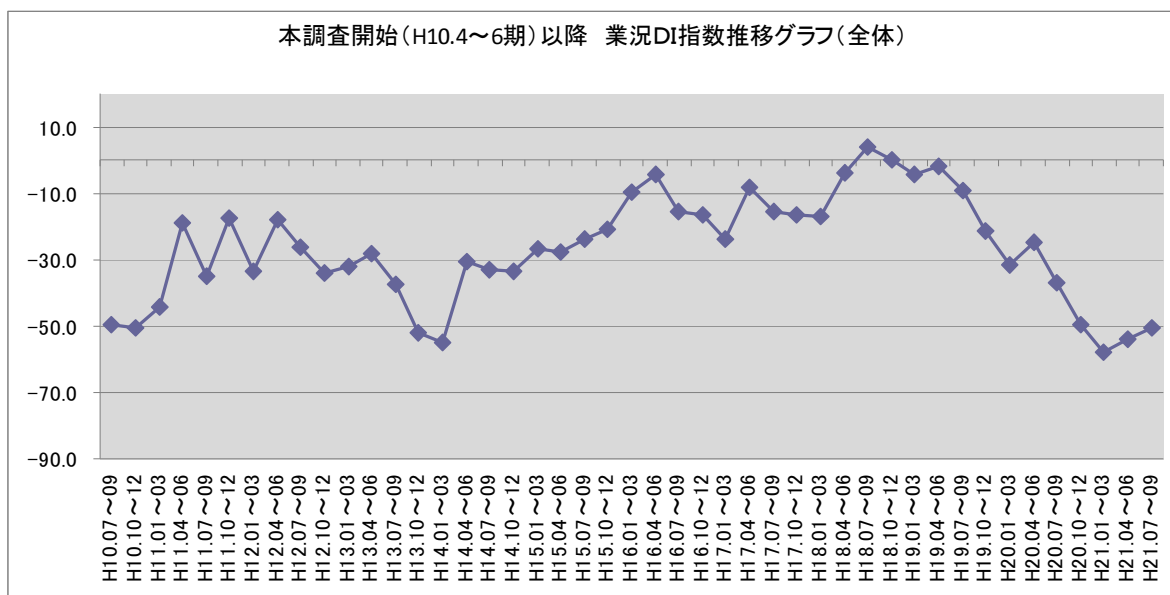
今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は8社であった。

- 世界の経済に対応しきれない日本の政治の悪さ。インフルエンザをはじめとするメディアの過剰さ。
- 得意先の廃業及び休業等で営業計画を立てにくい。
- 安心して消費に回せる経済環境を、将来的に何らかの明るさを示す政策を実施してほしい。
- 世界経済の回復（中国・米国等）により国内零細企業に刺激される要因（雇用・住宅等）がほしい。
- 秋以降、近隣の大企業の工場の設備投資が行なわれ、業界が活発化する動きがあるという情報もあるが、まだまだ確信的な話ではなく予断は許されない状況に変わりはない。
- 建設業界が回復する事はかなり難しい。相当数の同業者が淘汰されなければ回復は有得ないと考える。今の時代に建設一本でやっていくのは不可能である。リストラ、資金繰り難、受注減と、この業界は特に問題が山積みしており苦しいところである。
- 選挙中は経済は停滞しているが選挙後経済がどうなるか期待しているがどうなることか！
- 折角、ようやく経済情勢が明るく見えてきたように思いますが、8月31日の結果により、先行き長い暗いトンネルに入るような感じがします。（見通しが悪い）

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲ 50.5	▲ 34.4	▲ 59.1	▲ 49.5	▲ 47.3	▲ 41.9
建 設 業	▲ 45.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 45.0	▲ 45.0
製 造 業	▲ 80.0	▲ 80.0	▲ 90.0	▲ 70.0	▲ 50.0	▲ 40.0
卸 売 業	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 70.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 40.0
小 売 業	▲ 29.6	▲ 25.9	▲ 55.6	▲ 59.3	▲ 40.7	▲ 44.4
サービス業	▲ 69.2	▲ 38.5	▲ 69.2	▲ 50.0	▲ 57.7	▲ 38.5
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲ 21.5	▲ 5.4	▲ 43.0	▲ 37.6	▲ 6.5	▲ 4.3
建 設 業	▲ 15.0	5.0	▲ 40.0	▲ 35.0	▲ 20.0	▲ 10.0
製 造 業	0.0	10.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0
卸 売 業	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 10.0	▲ 10.0
小 売 業	▲ 29.6	▲ 25.9	▲ 33.3	▲ 40.7	11.1	11.1
サービス業	▲ 23.1	3.8	▲ 57.7	▲ 34.6	▲ 7.7	▲ 7.7
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資 金 繰 り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲ 22.6	▲ 17.2	▲ 3.2	▲ 6.5	▲ 8.6	▲ 7.5
建 設 業	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 5.0	▲ 5.0	▲ 15.0	▲ 20.0
製 造 業	▲ 10.0	▲ 40.0	0.0	▲ 10.0	0.0	0.0
卸 売 業	▲ 10.0	▲ 10.0	0.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0
小 売 業	▲ 18.5	▲ 11.1	7.4	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲ 38.5	▲ 19.2	▲ 15.4	▲ 11.5	▲ 15.4	▲ 7.7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>